



「100センチを跳んだ時のこと」
 6年 小山 純奈さん
 6年間で学んだこと、思い出に残っているのは陸上記録会だ。コロナの影響で市内の小中学校が一齐に集まっていた陸上大会はできなかった。でも陸上記録会は、一人ひとり競技ができて自分も活躍できるのではないかと考え、とても楽しみながら練習になり、やる気が出た。
 私は高跳びを選び、練習が始まった。練習が始まると、みんな高く跳べていて、自分だけあまり跳べていないことに気がついた。すると、高跳びをやめたい、他の競技にすればよかったなどのマイナスイメージを持つようになった。そして、高跳びが怖くなり、跳べていた高さも跳べなくなりました。それから、本当は嫌だったけど、一人だけで低い高さを練習するようになった。でも、低い高さでも跳べて嬉しかった。自然と楽しいと思えるようになり、質のいい練習ができるようになった。そして本番の陸上記録会。ベスト記録の90センチをこえて、95センチも跳ぶことができた。100センチ。思



「空間旅行」
 6年 遠藤 美桜さん

見ていて楽しいと思え、作品にするため、上下で「ジャングル」と「町」の二つの世界を表現しました。色をぬるときは、リアリティを出すために色の組み合わせを考えながら、細かいところまで丁寧に描きました。

いっせり地面をける。跳んだと思った。最後に手が当たって棒が落ちた。悔しかった。でも、自己ベストを更新できて嬉しかった。
 怖がらないで練習していれば、きっと、もっと跳べていたと思う。だからこれから、こつこつと簡単なことからいいからしっかり努力していきたい。そして努力した分、いい結果を残せるようにしていきたい。



市長コラム
「価値ある未来を、共に」



政策室
 ☎ 982・5112
 FAX 981・5392

「成人式」と「半成人式」
 ▼今年も「中学校区による分割開催」とし、総合体育館にて感染防止策を万全にして開催された「吉川市成人式」▼時間を短縮しての開催ゆえに、私は「南中学校区の成人式」のみへの出席となりましたが、「市長とランチミーティング」をはじめ、さまざまな市の事業などを通して、小さな頃から知っている新成人がたくさんおり、父親のような気持ちで「お祝いの言葉」をお伝えしました。（教育長は東中学校区、議長は中央中学校区へ）▼新成人達による「実行委員会」によって運営される「吉川市成人式」。新成人達の行動は素晴らしい、すべての学区において凛とした「成人式」となり、式の終了後は、会場片付けに参加する新成人達も見られました▼そしてその翌日は、児童館ワンダーランドにて、10歳の子供達が、夢を語



り、20歳の自分へ向けた手紙を書く「半成人式」が開催▼ゲストは、前日の「成人式」に参加されていた吉橋 優菜さんと宮原 涉さん。吉橋さんは「成人式実行委員」を務め、宮原さんはなんと10年前の「半成人式」の参加者というスペシャルゲストのお二人▼お二人は、当時書いた手紙を読みとくだったり、子供の頃の夢を実現させるべく、現在勉強中というお話も聞かせてくださり、参加している子供達はみんな真剣に耳を傾けていました▼その後、子供達は未来の自分へ手紙を書き、夢の発表を。すべての子が可能性にあふれていて、キラキラしていました▼10歳の子供達と20歳の若者達が、それぞれの未来を見つめた両日。吉川市全体が希望に満ちた日となりました▼すべての子供達、若者達に幸多からんことを願っています。

